#### 昭61 - 1829 ⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

@Int Cl.4

識別記号

**广内整理番号** 

四公開 昭和61年(1986)1月7日

F 02 B 37/12

C-6657-3G

審査請求 未請求 発明の数 1

64発明の名称

ターボ過給機

昭59-119800 创特 願

**22**H 頭 昭59(1984)6月13日

79発 明 長 谷 川 浩 之 富士宮市上井出2213番地

願 砂出

株式会社 エツチ・ケ

富士宮市上井出2213番地

ー・エス

弁理士 塩川 修治

1. 発明の名称

(1) ターピンハウジングの内部に排気を導入可 能とする鍋巻室を形成し、ターピンハウジングの 内部に上記渦巻室に進なるノズル部を形成し、 ターピンハウジングの内部の上記ノズル部に囲ま れる中央部にタービン羽根車を配置するととも に、上記ノズル部の周方向複数位置に揺動操作可 能とされる複数の案内羽根を配置してなるターボ 過給機において、案内羽根の揺動中心部と、案内 羽根のタービン羽根車寄りの蟾部とのなす距離 を、案内羽根の全長の30%以内に設定すること を特徴とするターボ過齢機。

3. 発明の詳細な説明

[技術分野]

本苑明は、ターボ過給機に関する。

[背景技術]

ター水温給煙には、第4回に示すように、ター

ピンハウジング1の内部に排気を導入可能とする 為着室2を形成し、ターピンハウジング1の内部 に上記編巻家2に連なるノズル部3を形成し、 ターピンハウジング1の内部の上記ノズル部3に 囲まれる中央部にターピン羽根車4を配置すると ともに、上記ノズル部3の周方向複数位置に抵動 操作可能とされる複数の案内羽根5を配置してな るターボ過給機6が提案されている。このターボ 湯給機 6 は、不図示の揺動手段の作動により、全 案内羽根5を遠動して、第4図に実線で示す位置 と、二点鎖線で示す位置との間を揺動可能として

即ち、このターボ過給機6においては、排気量 の少ないエンジンの低速時には、案内羽根5を第 4 図の実線で示す位置寄りに保持し、膀接する案 内羽根5が形成する排気の通過領域W1を教小化 レてノズル部3から噴出する様気流速を上昇させ るとともに、駄排気の流れがターピン羽根車4の 羽根4Aに対する47元角を小とすることにより、 排気によるタービン羽根車4の回転効率の向上を

計り、低速時における過輸圧の上昇を計っている。

また、このターボ過齢機らにおいては、排気量の多いエンジンの高速時には、案内羽根5を第4 図の二点鎖線で示す位置寄りに保持し、隣接をする 案内羽根5が形成する排気の通過領域Ψ2を拡大 化してノズル部3から変出する排気流速を低減さ せるとともに、鉄排気の流れがタービン羽根車4 の羽根4Aに対する岬え角を大とし、排気による タービン羽根車4の回転効率を低減し、高速時に おける過齢圧の適切な調整を行うことにより、 ノッキング等を発生させることなく所望の高速出 力を得る事を可能としている。

しかしながら、このターボ過給機 6 にあっては、案内羽根 5 の揺動中心部 5 A と、案内羽根 5 のターピン羽根車 4 寄りの蟷部 5 B との成す距離 L 1 を、案内羽根 5 の全長 L 2 の 5 0 % 以上に設定している。 従って、案内羽根 5 の上配端部 5 B がターピン羽根車 4 の外属部 との間に形成する間隔は案内羽根 5 の細動位置によって大きく変化す

気のエネルギーを有効にターピン羽根率に伝達 し、各選転状態に適合する最適な過齢圧を得ることを目的とする。

#### [発明の構成]

上記目的を達成するために、本発明は、タービンハウジングの内部に排気を導入可能とする上、巻窓を形成し、タービンハウジングの内内部に出ていた。タービンハウジングの内部の上記ノズル部に囲まれるというの内部の上記ノズル部に囲まれるというの内部の上記ノズル部に囲まれるというの内部を配置するともに、上されるのの場合とのようにしたものである。

#### [発明の具体的説明]

第1図は本発明の一実施例に係るターボ過齢機 10の要部を破断して示す正面図、第2図は第1 図のII — II 線に沿う断面図、第3図は第1図の る。 G 1 は実線で示す位置における最大関語であり、 G 2 は 2 点鎖線で示す位置における最小問題である。

[・発明の目的]

本発明は、エンジンの全差転範囲において、排

**Ⅲ-Ⅲ線に沿う断面図である。** 

上記ターボ過給機10は、ノズル億15の周方向複数位置に、誘動操作可能とされる複数の案内羽根20を配置している。各案内羽根20は、支輪21と、中間結合部22を介して一体化されて

いる。中間結合部22は、ターピンハウジング
13とともに調整室14、ノズル部15を形成し
ているパックプレート23に形成されてなる四部
24に配置されている。支輪21は、案内羽根
20の揺動中心部を構成し、パックプレート23
に形成されてなる軸受穴25に回転自在に支持されている。

バックプレート 2 3 の 過巻室 1 4 、 ノ ズ ル 移 1 5 に対する背面側には、 案内羽根 2 0 の 抵 動操作部 2 6 が配設されている。 即ち、 2 7 は、 外周部の周方向の複数位置に係合凹部 2 8 を形成されてなる a 重動プレートであり、 運動プレート 2 7 は、 軸受 2 9 を介してターピン羽根率 1 6 の 回転 1 6 の 名 東 1 6 の 名 第 2 1 に は、 建動アーム 3 0 の 編部が 固定されている。 発 日 に は、 連動アーム 3 0 の 編部が 固定されている。 4 公 の 3 1 を 連動プレート 2 7 の 4 係 合 凹 の 2 8 に 休 の 3 1 を 連動 アーム 3 0 よ り も 長 尺 と される 主 運動 アーム 3 0 よ り も 長 尺 と される 主 運動 アーム 3 0 よ り も 長 尺 と される 主 運動 アーム 3 0 よ り も 長 尺 と される 1 を 2 の 3 0 よ り も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 も 5 れる 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5 尺 2 される 1 を 3 0 よ 9 も 5

アーム30Aであり、主流動アーム30Aには投 作ロッド32の一幅がピン結合されている。操作 ロッド32の値端にはラック33が形成され、 ラック33には、ステップモータ34の出力額に 固定されているピニオン35が噛み合いされてい る。36は制御装置であり、エンジンの運転状 態、即ち、エンジンの回転速度、吸気負圧、排気 圧、スロットル弁の操作速度等の変化に応じて、 ステップモータ34を所定回転角度だけ駆動可能 としている。即ち、掲動操作部2.6 は、ステップ モータ34の回転により主連動アーム30Aを実 線で示す位置と2点鎖線で示す位置との間で揺動 し、政主連動アーム30Aの揺動によって進動プ レート27を揺動し、鉄連動プレート27の揺動 によって各連動アーム30を上配主連動アーム 30と同様に実線で示す位置と2点鎖線で示す位 置との間で揺動し、これにより、各連動アーム 30、30Aの揺動中心部である支軸21に一体 化されている全部の案内羽根20を同時に同一組 動角度だけ揺動操作可能とする。 なお、 3 7 は主

連動アーム30Aを実線で示す位置に停留するストッパピン、38は主連動アーム30Aを2点鎖線で示す位置に停留するストッパピンである。

しかして、この実施例においては、案内羽根20の活動中心部としての支輪21と、案内羽根20のタービン羽根車16等りの端部20Aとの成す距離を繋、即ち支輪21と上記端部20Aとを相互に一致させている。なお、案内羽根20の上記端部20Aは、タービン羽根車16の外周部に最も近接する位置に配置される。

次に、上記実施例の作用について説明する。

上記実施例においては、案内羽根20のターピン羽根車16等りの始部20Aが、案内羽根20の羽根20 の超動中心部としての支輪21に一致されていることから、案内羽根20は、制御装置36によるステップモータ34の駆動時に、ターピン羽根20 16の外周部に前途のように近接配置されている上記端部20Aを中心として、第2図の実践で示す位置と2点顕銀で示す位置との間を揺動可能と される.

従って、ターボ過給機10は、排気量の少ない エンジンの低速時、もしくはエンジンの低速ない し高速の全運転域における加速時等に、案内羽根 20を実線で示す位置に保持し、算接する案内羽 根20が形成する排気の通過領域W1を狭小化し てノズル部15から噴出する排気流速を上昇させ るとともに、該排気の流れがターピン羽根率16 の各羽根16Aに対する仰え角を小とする場合に も、実内羽根20の上記幅部20Aがターピン羽 組束18の外周部に近接する状態を維持可能であ る。これにより、上記状態下で、静接する案内羽 祖20が形成する前記通過領域W1を通過する排 気の流れがタービン羽根車16の外周部の接線方 向に指向することとなり、排気によるターピン羽 根車16の回転効率を確実に向上し、過給圧のす みやかな上昇を得ることが可能となる。

また、ターボ過給機10は、排気量の多いエンジンの高速時に、実内羽根20を2点鎖線で示す位置寄りに保持し、臍抜する実内羽根20が形成

する排気の通過個域W2を拡大化してノズル部 15から噴出する排気放速を低減させるととも に、放排気の流れがタービン羽根車16の各羽根 16Aに対する仰え角を大とし、排気によるター ピン羽根車16の回転効率を低減し、高速時にお ける過齢圧の適切な調整を行うことにより、ノッ キング等を発生させることなく所望の高速出力を 得る事を可能とする。

、なお、上記実施例は、案内羽根2.0の揺動中心

配置するとともに、上記ノズルのの周方向複数位置に活動操作可能とされる複数の案内羽根を配置してなるターボ過船機において羽車寄りの端部と中心部と、案内羽根のタービン羽車寄りの端部とのようにしたものである。従って、エンジンの全運転額囲において、排気のエネルギーを設めて、非別のようにはある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1 図は本発明の一実施例に係るターボ過給機の要部を破断して示す正面図、第2 図は第1 図のⅡ - Ⅱ 線に沿う断面図、第3 図は第1 図のⅢ - Ⅲ 線に沿う断面図、第4 図は従来例に係るターボ過給機の要部を示す断面図である。

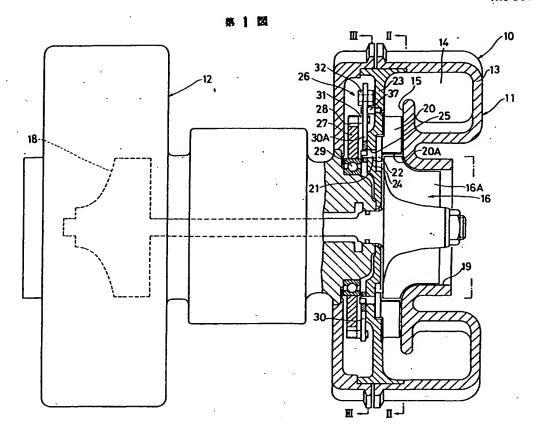
1 0 … ターボ過節機、 1 3 … タービンハウジング、 1 4 … 獨亳室、 1 5 … ノズル部、 1 6 … タービン 羽根車、 2 0 … 実内羽根、 2 0 A … 蟾部、 2 1 … 支軸、 L 1 、 L 2 … 全長。

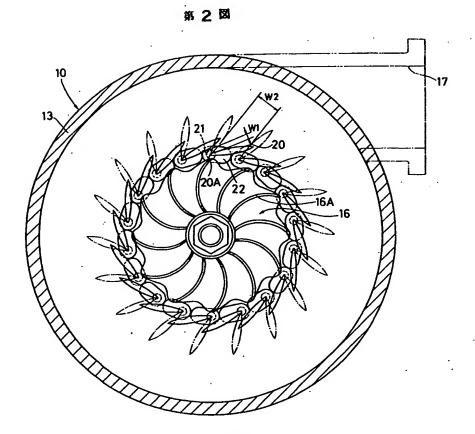
·代理人 弁理士 塩川 佐 治··

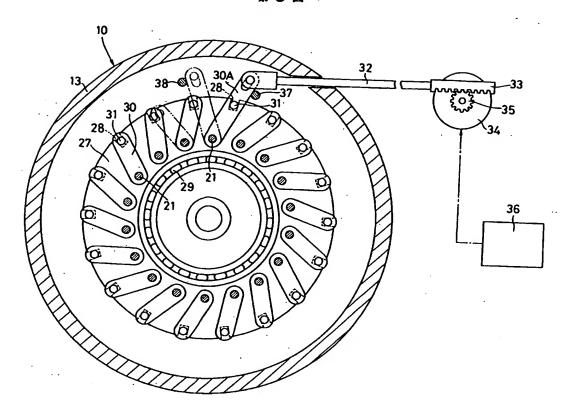
部としての支輪21と、実内羽根20のタービン 羽根車16等りの端部20Aとの成す距離を常ま する場合について設明した。しかしながら、本外 明においては、実内羽根の揺動中心部と、来内羽根の揺動中心部とのなす距離 4 図の L 1 に相当する長さりの30%に相当する長さりの30%を離ればよい。上面にから、全球の の30%を越える長さに設定する場合にはよりの 羽根の野角度変更時にノズルの野角には出まる長さに設定する場合には出まる長さに設定する場合にはより の30%を越える長さに設定する場合にはより 羽根の猫がタービン羽根車の外別部の外別に 気の流れがタービン羽根車の外別部の外別に 気の流れがタービン羽根車の外別部の外別を し、排気のまれいぞったる程度に向上することが 数数を現実的に要求される程度に向上することが の30%を現実のに要求される程度に向上することが の30%を表える程度に向上することが の30%を表える程度に向上することが の30%を表える程度に向上することが の30%を表える程度に向上することが の30%を表える程度に向上することが

#### [発明の効果]

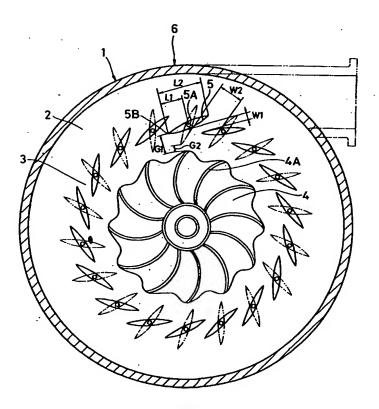
以上のように、本発明は、タービンハウジングの内部に排気を導入可能とする過過窒を形成し、タービンハウジングの内部に上記過過窒に適なるノズル部を形成し、タービンハウジングの内部の上記ノズル部に囲まれる中央部にタービン羽車を







20 A RA



-200-

PAT-NO:

JP361001829A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61001829 A

TITLE:

TUBO-SUPERCHARGER

PUBN-DATE:

January 7, 1986

**INVENTOR-INFORMATION:** 

NAME

HASEGAWA, HIROYUKI

**ASSIGNEE-INFORMATION:** 

NAME

COUNTRY

KKHKS

N/A

APPL-NO:

JP59119800

APPL-DATE: June 13, 1984

INT-CL (IPC): F02B037/12

**US-CL-CURRENT: 60/602** 

### ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain the optimum supercharged pressure corresponding to each

operation state by setting the distance between the swing center part of a guide vane and the edge part close to the turbine vane wheel of the guide vane

within 30% of the total length of the guide vane and effectively transmitting the exhaust energy onto the turbine vane.

CONSTITUTION: In a turbo-supercharger 10, a guide vane 20 is held at the position shown by the full line, when an engine is in low-speed or in acceleration operation, and the flow speed of the exhaust jetted-out from a nozzle part is increased by narrowing the exhaust passing area W < SB > 1 < /SB >. When the engine is in high-speed operation, the guide vane 20 is set at the position shown by the alternating two-point dotted line, and the flow speed of the exhaust jetted-out from the nozzle part is reduced by spreading the exhaust

passing area W < SB > 2 < /SB >. Though the distance between the supporting shaft 21

as the **swing center part of the guide vane** 20 and the edge part 20A close to

the turbine vane wheel 16 of the guide vane 20 is zero on the drawing, said distance may be set within 30% of the total length of the guide vane.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER.

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.